

# 感じのいい着こなしは

## 京都御池中 寸劇交え「服育」授業



制服を着崩した教員の寸劇を見て、服装の意味を考える生徒たち(京都市中京区・京都御池中)

定めず、シャツやセーターに選択の幅をもたせている理由について

て、学生服専門店の長屋博久さん(41)が「地域や学校関係者が『生徒たちに判断する力を付けてほしい』と期待して決めた」と解説し、生徒たちは真剣な表情で聞き入っていた。

(梶井進)

服装の役割や、人に与える印象を考える「服育」の授業が17日、京都市中京区の京都御池中であり、1年生約220人が社会で求められる服の着こなし方などを学んだ。

5月の職場体験を前に、地元の学生服専門店や生地商社の関係者を講師に招いて毎年開いている。授業では、生徒が看護師や事務職

員の制服を見て、機能性や人に与えるイメージを考えた。制服を着崩した教員による職場体験の寸劇では、生徒たちが「髪を留めるゴムが派手」「白いベルトは合わない」などと発表し、場所や場面に適さない服装があることを学んだ。

また、京都御池中が制服の衣替えの時期を